

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	ベルト鳴き止め一発！！		
販売元	株式会社 コメリ		
住所	新潟県新潟市清水 4501-1		
電話番号	025-371-4805		
製造元	株式会社 ヴィプロス	作成者	竹谷 一浩
住所	東京都江東区亀戸 9丁目37番1号	緊急連絡先	本社開発部
管理者	村上 康樹	電話番号	03-3685-4351
電話番号	03-3683-8333	作成	2012年5月17日
FAX番号	03-3637-5276		

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

[物理化学的性質]

可燃性/引火性エアゾール 区分1
引火性液体 区分2

[健康に対する有害性]

急性毒性（経口） 区分外
急性毒性（経皮） 分類できない
急性毒性（ガス） 区分5
急性毒性（蒸気） 区分外
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト） 区分外
皮膚刺激/腐食性 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2
呼吸器感受性 区分1
皮膚感受性 区分1
生殖細胞変異原性 区分1B
発がん性 区分外
生殖毒性 区分1A
特定標的臓器/全身毒性（単回暴露） 区分3（気道刺激性、麻酔作用）
特定標的臓器/全身毒性（反復暴露） 区分1（中枢神経系、末梢神経系、肝臓）
区分2（神経系）
吸引性呼吸器有害性 分類対象外

[環境に対する健康性]

水生環境急性有害性 区分2
水生環境慢性有害性 区分3

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚気語：危険

[重要危険有害性]

高圧ガスが入っている。加熱・衝撃等により破裂する危険性がある。
燃えやすいガスが入っている。ガスが滞留すると爆発の恐れがある。
液化ガスは、ごく弱い麻酔性がある。高濃度暴露において軽い不快感が起こるが外観の変化はない。
液化ガスが、皮膚に触れると炎症や凍傷を起こす。
非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。
有機溶剤中毒を起こす可能性がある。
アレルギー症状を引き起こす恐れがある物質を含有している。

[危険有害性情報]

極めて可燃性・引火性の高いエアゾール（皮膚刺激）
 吸入すると有害のおそれ（ガス：強い眼刺激）
 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
 遺伝性疾患のおそれ
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気又はめまいのおそれ
 長期又は反復暴露による臓器（中枢神経系、末梢神経系、肝臓）の障害
 長期又は反復暴露による臓器（神経系）の障害のおそれ
 水生生物に毒性
 長期的影響により水生生物に有害

3. 組成及び成分情報

[単一製品・混合物の区別] 混合物

内容成分 (化学名又は慣用名)	含有量 [wt%]	化学式	既存番号 物質番号	CAS No.	PRTR法 政令番号	安衛法通知物 政令番号
①n-ヘキサン	1.7	C ₆ H ₁₄	2-6	110-54-3	1-392	520
②エタノール	10~20	CH ₃ CH ₂ OH	2-202	64-17-5	特定できず	61
③ロジン	1~10	C ₁₀ H ₁₀ O ₂	—	2246-49-3	特定できず	特定できず
④イソヘキサン	40~50	C ₆ H ₁₄	2-6	107-83-5	特定できず	520
⑤イソブタン	1~10	C ₄ H ₁₀	2-4	75-28-5	特定できず	482
⑥プロパン	1~10	C ₃ H ₈	2-3	74-98-6	特定できず	特定できず
⑦n-ブタン	1~10	C ₄ H ₁₀	2-4	106-97-8	特定できず	482
⑧ジメチルエーテル	20~30	C ₂ H ₆ O	2-360	115-10-6	特定できず	特定できず

4. 応急措置

- [目に入った場合] 直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。眼の裏まで完全に洗うこと。
出来るだけ速く医師の診断を受ける。
- [皮膚に付着した場合] 付着物を布にてすばやく拭き取る。
大量の水及び石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。
溶剤、シンナーは使用しないこと。
外観に変化がみられたり、痛みがある場合には、医師の診断を受ける。
- [吸入した場合] 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人口呼吸を行う。
嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の診断を受ける。
蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受ける。
- [飲み込んだ場合] 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受ける。
嘔吐物は飲み込ませない。
医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

- [使用可能消火剤] 炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂
- [消火方法] 適切な保護具（耐熱着衣など）を使用する。
可燃性のものを周囲から速やかに取り除く。
指定の消火剤を使用する。
高温にさらされる製品容器に水をかけて冷却する。
消火活動は風土から行うこと。
エアゾール製品の場合、高温で破裂する恐れがあるため、消火活動は十分にとる。

6. 漏出時の措置

[人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置]

作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。風土を留まる。
低地から離れる。密閉された場所に入る前に換気する。

[環境に対する注意事項]

排水溝、下水溝、地下室あるいは密閉場所への流入を防ぐ。
河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。環境中に放出してはならない。

[回収]

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で回収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

[封じ込め及び浄化方法と機材]

危険でなければ漏れを止める。漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
蒸気抑制泡は蒸発速度を低下させるために用いる。

[二次災害の防止策]

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
蒸気発生が多い場合は、噴霧注水により蒸気発生を抑制する。関係個所に応援を求める。

7. 取扱いおよび保管上の注意

[取扱い上の注意] 換気の良い場所で取り扱う。
容器はその都度キャップ（ストッパー）または密閉する。
周辺で火気、スパーク等の発火源となるものや高温物の使用は禁止する。
工業用品は静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。
工具は火花防止型のものを使用する。
作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
使用済みウェスは、廃棄するまで水に漬けておく。
40℃以上の所では取り扱わないこと。
火気のあるところでは取り扱わないこと。
40℃以上に温めないこと。
エアゾール製品の場合、30秒以上の連続使用をしないこと。（ただし、連続噴射式製品を除く）
密閉された場所での作業の場合、十分な局所排気装置を設け、適切な保護具を着用する。
内容物を眼、皮膚に接触させないこと。
炎に向けて使用しないこと。

[保管上の注意] 日光の直射を避ける。
通風の良いところに保管する。
火気、熱源から遠ざけて保管する。
温度が40℃以上の所で保管しない。
水回りや高湿度の場所での保管は避ける。
ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。

子供の手の届かないところに保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

【管理濃度と許容濃度】

内 容 成 分 (化学名又は慣用名)	管理濃度 (ppm)	許容濃度 日本産業衛生学会	許容濃度 ACGIH(TWA)
①n-ヘキサン	400ppm	40ppm	50ppm
②エタノール	設定されていない	設定されていない	1000ppm
③ロジン	設定されていない	設定されていない	設定されていない
④イソヘキサン	設定されていない	設定されていない	500ppm
⑤イソブタン	情報なし	500ppm	1000ppm
⑥プロパン	情報なし	情報なし	1000ppm
⑦n-ブタン	情報なし	500ppm	800ppm
⑧ジメチルエーテル	設定されていない	設定されていない	設定されていない

【設備対策】

<共通>

局所排気装置をつけて、蒸気が滞留しないようにする。

取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設置とすること。

<工業用品の場合>

取り扱い設備は防爆型を使用する。

屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備とすること。

取り扱い場所の近辺に洗眼及び身体洗浄のための設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

【保護具】

呼吸系の保護具 : スプレーを行う場合には適切な保護マスクを着用する。
密閉された場所では送気マスクを着用する。

目の保護具 : 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。

皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
粉塵マスク、または必要に応じて防毒マスクを着用する。

その他の注意事項 : 着衣が内容物で濡れた場合、すぐに取り換える。

9. 物理的及び化学的性質

項目/成分	原液 (①～⑧混合物)	ガス
形状	液体	液体
色	淡黄色	無色
臭い	溶剤臭	やや甘み臭
pH	—	情報なし
比重 (相対密度)	0.709±0.02g/cm ³	0.63g/cm ³
融点	データなし	-187.75～-138.4℃
初留点・沸点	—	-42.1～-0.5℃
引火点	-30℃以下 (イソヘキサン)	-104℃
爆発限界	データなし	1.9～27%
蒸気密度 (空気=1)	データなし	データなし
溶解性	情報なし	情報なし
発火点	280℃ (イソヘキサン)	350℃
蒸気圧	データなし	0.4MPa (20℃)
オクタノール/ 水分係数	情報なし	情報なし
分解温度	データなし	データなし

10. 安定性及び反応性

[反応性] 条件 (温度、光等) : エアゾール製品の場合 40℃以上になると缶が破裂する恐れがある

[安定性] 通常の保管、取扱い条件では安定である。
 接触により危険のある物質: 酸化剤
 燃焼等による有害ガス発生

[危険有害な分解生成物] 加熱分解、燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

[避けるべき条件] 火気、酸化剤との接触

11. 有害性情報

[各成分の有害性情報]

項目	①n-ヘキサン	②エタノール	③ロジン	④イソヘキサン
急性毒性 (経口)	区分外	区分外	区分外	区分外
急性毒性 (経皮)	分類できない	区分外	区分5	区分外
急性毒性 (吸入: ガス)	情報なし	情報なし	分類できない	情報なし
急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない	区分外	分類できない	情報なし
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	分類できない	分類できない	区分4	情報なし
皮膚腐食性、刺激性	区分2	区分外	区分外	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A	区分2B	区分2B	区分2A-2B
呼吸器感作性	情報なし	分類できない	区分1	情報なし
皮膚感作性	分類できない	分類できない	区分1	情報なし
生殖細胞変異原性	区分外	区分1B	分類できない	情報なし
発がん性	分類できない	分類できない	分類できない	情報なし
生殖毒性	区分2	区分1A	分類できない	区分2
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	区分3 (麻酔作用、 気道刺激性)	区分3 (中枢神経系、 気道神経系)	分類できない	区分3 (麻酔作用、気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	区分1 (中枢神経系、 末梢神経系)	区分1 (肝臓) 区分2 (中枢神経系)	分類できない	区分1 (中枢神経系、末梢神経系)
吸引性呼吸器有害性	区分1	分類できない	分類できない	区分1

項目	⑤イソブタン	⑥プロパン	⑦n-ブタン	⑧ジメチルエーテル
急性毒性（経口）	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類できない
急性毒性（経皮）	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	区分外	区分外	区分外	分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類できない
皮膚腐食性、刺激性	分類できない	区分外	分類できない	区分3
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない	分類できない	分類できない	区分2B
呼吸器感作性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚感作性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
発がん性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
生殖毒性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	区分3（麻酔作用）	区分3（麻酔作用）	区分3（麻酔作用）	区分3（気道刺激性）
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類できない

12. 環境影響情報

〔水生環境急性有害性〕 区分2

〔水生環境慢性有害性〕 区分2

〔各成分の環境影響情報〕

内 容 成 分 (化学名又は慣用名)	水生環境急性有害性	水生環境慢性有害性
①n-ヘキサン	区分2	区分外
②エタノール	区分外	区分外
③ロジン	区分2	区分2
④イソヘキサン	区分2	情報なし
⑤イソブタン	情報なし	情報なし
⑥プロパン	分類できない	分類できない
⑦n-ブタン	分類できない	分類できない
⑧ジメチルエーテル	分類できない	分類できない

13. 廃棄上の注意

〔残余廃棄物〕

中身を使い切ってから廃棄する。

燃焼性物質はアフターバーナー及び排ガス浄化装置を備えた焼却装置で焼却処理することが可能である。

ただし、周辺環境や生態系に対して無害かつ安全に処理するためには十分な設備及び知識が備わっていないとばならない。処理作業に不安が伴う場合は、正式認可を得た処理業者に内容を開示した上で処理を委託することが望ましい。

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

〔汚染容器及び包装〕

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

エアゾールの製品の場合は、焼却処理を行わないこと。

エアゾール製品の場合は、中身を完全に使い切り、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを抜く際には、火気及びミストの吸入などについて注意すること。

14. 輸送上の注意

〔共通〕 取り扱い及び保管上の注意の項に従う。

容器に漏れのないことを確かめ、転落、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

〔国際規制〕 国連分類 クラス 2.1 引火性ガス（エアゾール）

国連番号 UN1950 （エアゾール）

海上規制情報 IMOの規定に従う

航空規制情報 ICAO/IATAの規定に従う

〔国内規制〕 陸上輸送 消防法、労働安全衛生法に定められている輸送方法に従う。

海上輸送 船舶安全法等に定められている運送方法に従う。

航空輸送 航空法等に定められている運送方法に従う。

15. 適用法令

〔高圧ガス保安用〕 適用除外項目対象

〔消防法〕 第4類第1石油類 非水溶性 危険物等II

〔船舶安全法〕 危険物（高圧ガス）

〔航空法〕 航空法に定めるところに従う。

〔労働安全衛生法〕 施行令 危険物（引火性、可燃性のガス）

16. その他の情報

参考文献

- ・日本塗料工業会編集「MSDS用物質データベース」
- ・日本塗料工業会編集「MSDS作成ガイドライン」
- ・各メーカー製品安全データシート